

県文化財団などは3日、改修のため休館しているグランシップの出前事業として「ふじのくに文化情報フォーラム」を三島市民文化会館で開いた。新型コロナウイルスの感染拡大で文化・芸術活動も制約を受ける現状を「転換点」ととらえ、多彩な分野で活躍する

県内の3氏をゲストに「文化は何に学ぶのか」を考えた。荒武優希さん、舞踊家で「はままつ・つながり・アート」代表の杉浦麻友美さん。

これまで経験した父の会社を受け継いで自社ブランド「三代目板金屋」を立ち上げた山崎製作所(静岡市)の山崎かおり社長、東伊豆町で地域おこしの活動に取り組む合同会

「文化は二の次」だが、文化は「一」が述べた。参加者との意(三島支局・金野真仁)



見交換も行き、「転換点の行動が成功かどうか、分かるのは先の話。まずは動きださないと始まらない」などの声が上がった。

湧水

沼津信用金庫が運営する起業家支援拠点施設「ぬましんCOMPASS(コンパス)」(沼津市高島町)内のコワーキングスペースに10月、初

の入居企業が決まった。同信金は今後、創業間もない起業家に対する伴走支援を総合的に行う。こうした施設を手掛ける背景には、将来有望な産業を発掘して育て、新たな顧客を囲い込むことで信

金自身が生き残りを図る狙いもある。7月に開業したぬましんCOMPASSは旧駅

起業家支援拠点「ぬましんCOMPASS」

北支店を改装し、起業家に貸し出すシェアオフィスとコワーキングスペースを完備。沼津高専のサテライトオフィスやワークショップスタジオも入る。

コワーキングスペースの入居第1号は、企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)支援を展開する「セブンセンスマーケティング」。同

信金は経営が軌道に乗るまで原則2年間、スペースを格安で貸し出す。

特典も多し。常駐する信金職員の創業支援マネジャーが事業展開について恒常的に助言するほか、信金と取引がある

生き残りへ手腕注目

地元中小企業とのビジネスマッチングを図り、運転資金の融資も行う。将来的に独立する際には、市街地の空き店舗などへのオフィス移転先も世話する予定で、まさに至れり尽くせりだ。

起業支援がここまで厚い理由は、地域経済の縮小に歯止めがかからない中、金融機関も新たな顧客を開拓しなければ、存続の危機に直面しかねないからだ。とりわけ県

中、西部の6信金は昨年までに、3信金へと相次ぎ統合したのに対し、県東部4信金は今のところ現状維持を選んでいる。

だが、菅義偉政権は地銀(東部総局・数崎拓也)

伊豆スカイライン



伊豆スカイラインを走行しながら安全運転を呼び掛ける白バイ隊員やバイク愛好家ら(伊東市の亀石峠)

同署によると、伊豆スカイラインと西伊豆スカイラインの過去10年の事故死者は10人で、その内9人が二輪車関連。秋はツーリング客が増えるため、速度抑止を促した。

今年度の県内の交通事故状況は人身事故の件数は減少しているが、死者は92人(前年比15人増)で、二輪車事故死者は8人増となっている。同署の鈴木光弘署長は「伊豆スカイラインの利用者が事故に遭わない、起こさせないようにする気持ちで取り組んでいたが、い」とあいさつした。

委員した。任期は1日から、最長3年間。神奈川県藤沢市から移住した青木さんは、東京でウェブデザイン

会社を営んでいた田中さんは、市産業振興課に所属し、耕作放棄地の活用などに取り組む。「趣味の釣りなど

石川 雅也氏(いしかわまさや)

3日午前1時15分、死去。84歳。自宅は富士市森島。通夜は6日午後6時から、告別式は7日午前11時から富士市宮島146の1のJA富士市やすらぎ駅南会館で。喪主は妻幸子(さちこ)さん。

土屋 雄司氏(つちやゆうじ)

三光取締役会長、元小山ライオンズクラブ会長。2日午後9時12分、死去。90歳。自宅は小山町須走72の1。通夜は5日午後6時から、告別式は6日午前9時から御殿場市萩原931の5の福井堂やすらぎホールで。喪主は孫友和(ともかず)氏。

若林 宏氏(わかばやしひろし)

元若林板金店代表。2日午後11時53分、死去。83歳。自宅は富士宮市大中里。通夜は6日午後7時から、告別式は7日午前10時から富士宮市外神東町77のJA